

法政学の探究LA 第8回

戦争の中を生きた学友たち

久納好孚を例に

2023年11月17日(金) F406教室

太平洋戦争の末期、軍部は戦局の劣勢を挽回するため、若き兵士を爆弾を積んだ戦闘機や爆撃機、特殊潜航艇や特殊舟艇に乘せ、連合軍の艦船に体当たりさせる自爆攻撃を行わせた。「特別攻撃隊」、略して「特攻」である。





「俺は、君のためにこそ死にに行く」(東映 2007年公開)

一九四四年十月二十一日、最初に「特攻」を行ったのは、ある大学出の青年だった。その青年の出身大学とは？

① 東京帝国大学

② 法政大学

③ 明治大学

④ 国士舘大学



久納好孚(くのう こうふ)

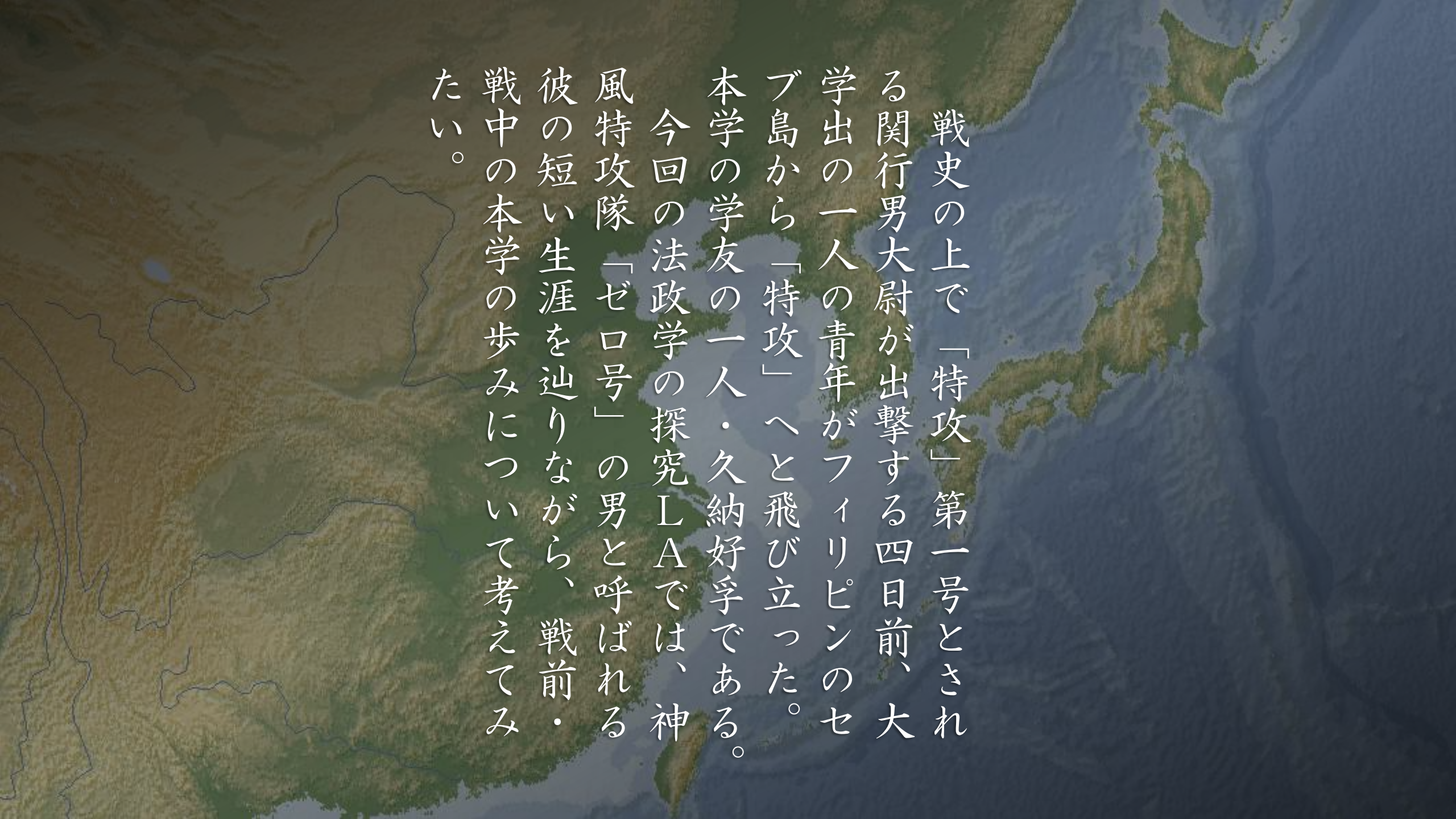
一九二一～四四)

一九四〇年四月、法政大学専門部
法律科入学、四二年七月、卒業。

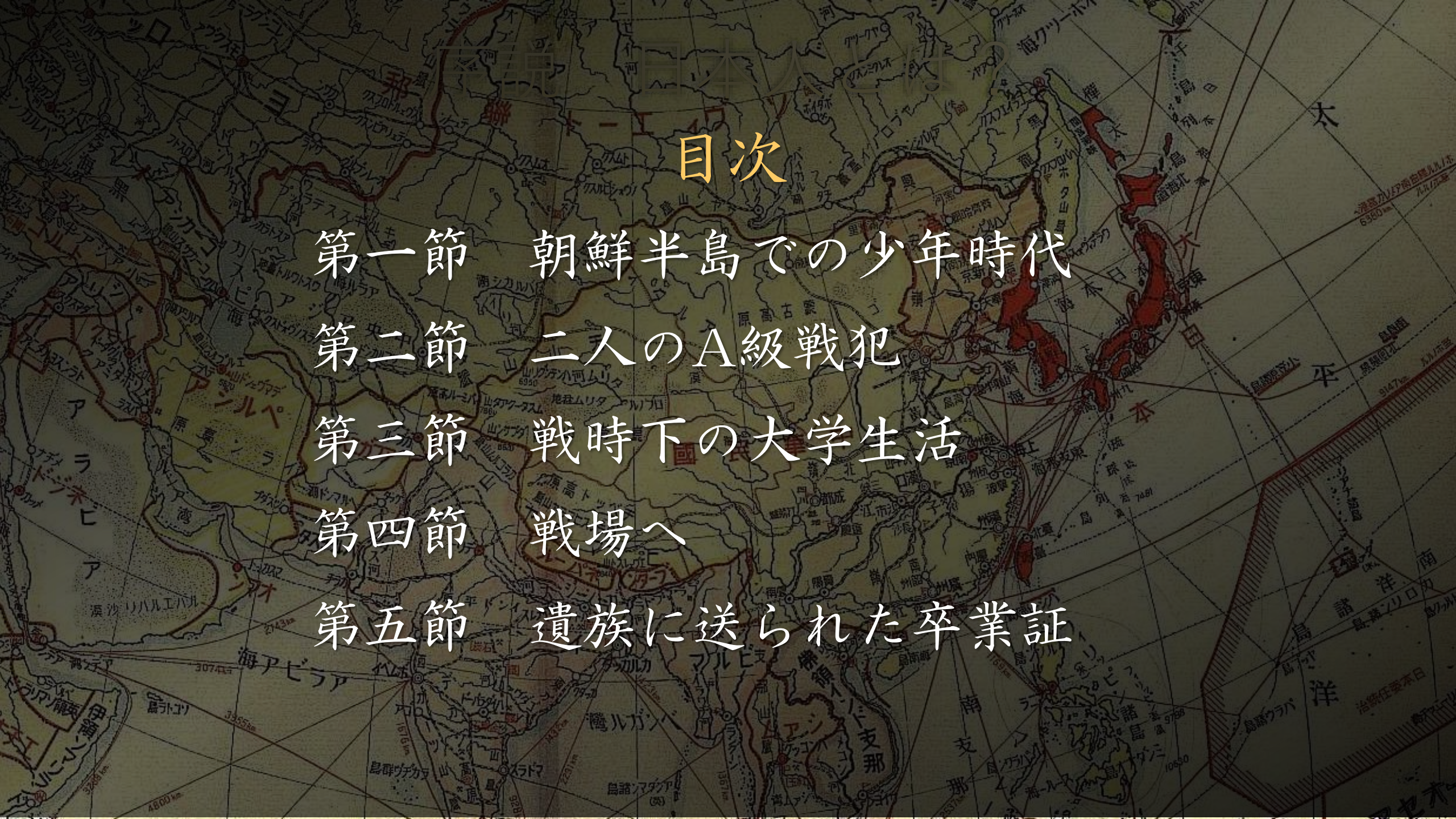
〔参考文献〕

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男』海軍中尉久納
好孚の生涯』(光人社NF文庫、一九九五年)





戦史の上で「特攻」第一号とされる関行男大尉が出撃する四日前、大
学出の一人の青年がフィリピンのセ
ブ島から「特攻」へと飛び立った。
本学の学友の一人・久納好孚である。
今回の法政学の探究LAでは、神
風特攻隊「ゼロ号」の男と呼ばれる
彼の短い生涯を辿りながら、戦前・
戦中の本学の歩みについて考えてみ
たい。



目次

第一節 朝鮮半島での少年時代

第二節 二人のA級戦犯

第三節 戦時下の大学生活

第四節 戦場へ

第五節 遺族に送られた卒業証

第一節 朝鮮半島での少年時代



久納好孚は一九二一（大正十）年一月十五日、朝鮮仁川府明照寺*の回教師・久納察岡（きっけい）の四男として生まれた。

*東京芝の増上寺が、朝鮮半島での布教のため、一九〇三（明治三六）年、久納察岡を派遣して建立した寺

〔参考文献〕

- ・大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男』海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫一九九五年）
- ・仁川教育会編『仁川郷土誌』（昭和7年）





久納好孚が生まれた
仁川(인천)

過去の質問から

Q 久納好孚さんは、民族としては朝鮮の方だったのでしょうか？

A 久納家はもともと愛知県の出身で内地出身の日本人です。浄土宗の僧侶であった父親の久納察問が、布教のため朝鮮半島に派遣されたため、一家もそこで暮らしていました。

久納好孚が生まれ育った一九二〇
〜三〇年代、朝鮮半島はどのような
時代だったか？

① 朝鮮王朝時代

② 大韓帝国時代

③ 日韓併合後の日本統治時代

④ 朝鮮戦争後の南北分断時代



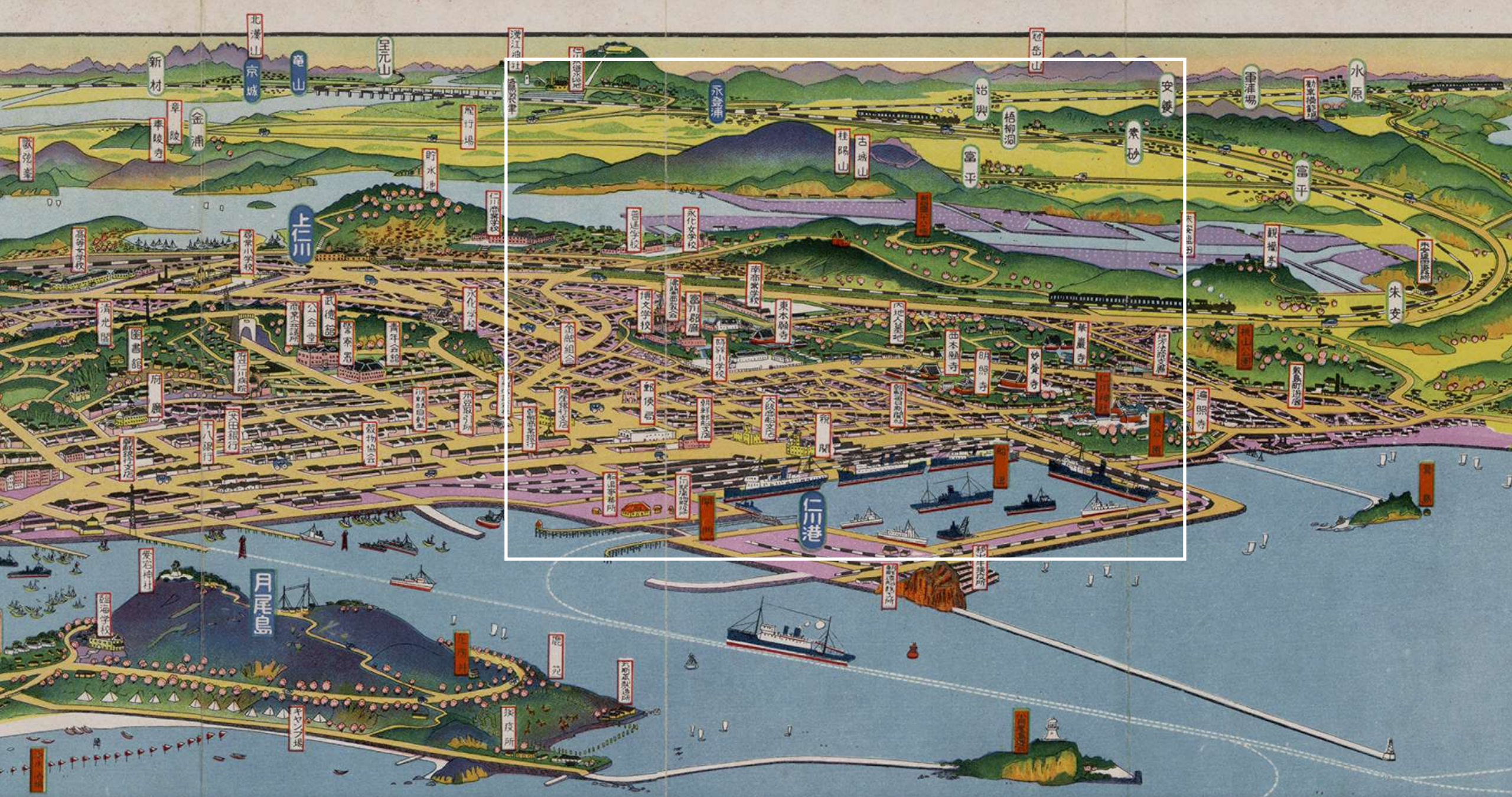
日本統治下の朝鮮半島

朝鮮半島は、久納好孚さんが生まれる十一年前の一九一〇年、日本と大韓帝国との間で締結された「韓国併合に関する条約」により、日本の植民地統治下となった。





吉田初三郎著『仁川』（朝鮮博覧会仁川協賛会 1929年）



吉田初三郎著『仁川』(朝鮮博覧会仁川協賛会 1929年)



久納好孚が生まれた
仁川(인천)の明照寺



旧日本第一銀行(仁川開港博物館)



復元された旧日本租界の町並み

多民族国家の標榜

戦前の日本は、日清戦争で台湾、
日韓併合で朝鮮を版図に収め、多民
族国家であることを標榜していた。



多民族国家の標榜

「（わが国の）国民の大多数は大和民族にして、其の数五千四百余万に及ぶ。其の他、朝鮮には約一千六百万の朝鮮人あり、台湾には十余万の土人と支那より移り住める三百余万の支那民族とあり。又北海道にはアイヌ、樺太にはアイヌ其の他の土人あり。民族は相異なれども、ひとしく忠良なる帝国の臣民たり。」

文部省『尋常小學地理書卷一』（一九一九年発行）



朝鮮など植民地の人々は、教科書に書かれているとおり、「ひとしく忠良なる帝国の臣民」として、平等に扱われていたのだろうか？

この教科書が編纂された一九一九年、その現実が露呈する大事件が起こった。その事件とは？



① 第一次世界大戦

② 三・一独立運動

③ 関東大震災

④ 世界恐慌

この教科書が編纂された一九一九年、朝鮮では日本の植民地支配からの独立を求める三・一独立運動が起こった。

この運動が朝鮮半島全土に波及すると、日本は軍隊を投入して鎮圧に当たった。その結果、堤岩里(チェアムニ제암리)事件など各地で多くの市民が殺傷される事件が起こった。



NHKスペシャル日本と朝鮮半島第02回「三一独立運動と親日派」より

堤岩里事件の指揮を執ったのは、有田俊夫という陸軍歩兵中尉だった。この事件が国際的な批判を浴びると、彼は責任を問われ、軍法会議にかけられた。

公開された判決文によれば、彼は部下に命じて近辺の住民二十七名を殺害、教会や家屋を放火させたほか、自らも被害者一名とその妻一名を斬殺したという。

Q

この裁判で有田俊夫中尉に下された判決は？

- ①死刑
- ②無期懲役
- ③懲役三年、執行猶予五年
- ④無罪

判決書

廣島縣豐田郡吉名村三百二十五番屋敷
忠次郎孫

歩兵第七十九聯隊附

陸軍歩兵中尉從七位 有田俊夫

明治三十四年十月廿日生

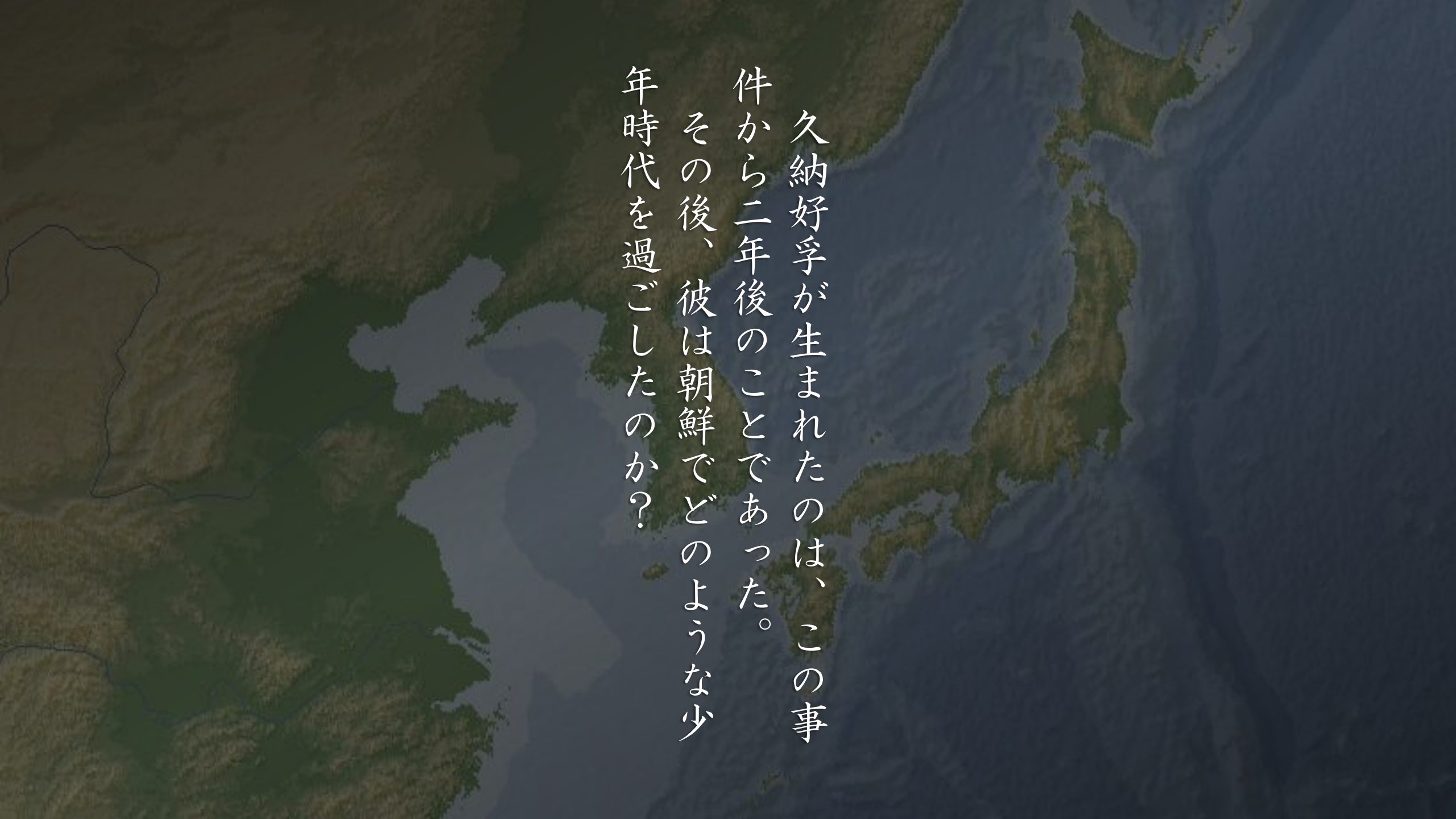
右ノ者ニ對スル殺人及放火被告事件審理ヲ遂
ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告俊夫ヲ無罪トス

理由

「有田中尉に係る裁判宣告の件」 1919年8月21日(アジア歴史資料センター)



久納好孚が生まれたのは、この事件から二年後のことであつた。
その後、彼は朝鮮でどのような少年時代を過ごしたのか？



久納好孚が少年時代を
過ごした大田(대전)



久納好孚が通った小学校跡

植民地統治下の朝鮮での少年時代

久納家には、好孚と同年輩の崔という下男がいた。幼時から久納の家で育てられ、家族と同じようにあつかわれていた。好孚は、この崔ともに育った。

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男』海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



植民地統治下の朝鮮での少年時代

好孚の小学校時代のことだ。ある日、崔が日本人の子供にいじめられ、泣いて帰ってきた。それを知った好孚は、血相を変えて家を飛びだし、いじめた日本人の子供を殴りかえしてきたという。

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男／＼海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）





久納好孚は乱暴者だったのか？

植民地支配下の朝鮮での少年時代

（大田中学時代の同級生・平沢一郎氏談）

「久納は平和主義者ですよ。私たちの中学校では、上級生が下級生をよくぶん殴ったものですが、久納は絶対に暴力をふるわなかった。」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男／＼海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



大田中学校の軍事教練(1930年)

日本植民地統治下の朝鮮半島に生まれながらも、偏狭なエスノセントリズム (ethnocentrism)、自民族中心主義) に陥ることのない心優しい少年。それが少年時代の久納好孚であった。





第二節 二人のA級戦犯

ファッションの時代へ

久納好孚が思春期を迎えたころ、日本は軍部の台頭により、ファッションの道をひた走るようになっていた。

二・二六事件の翌年には日中戦争がおこり、やがて日本だけでも三百万人以上の犠牲者を出し、国土を焦土と化す太平洋戦争へと突入していった。



なぜ日本は、軍部の台頭を許して
しまったのか。ライシャワー*はそ
の原因を次のように説明している。

「（戦前の）日本において、国家主
義的かつ権威主義的な反動が起こっ
たことの裏には、当然ながら、数世
紀にわたって形成された日本人のあ
る特質があった。：：幾百年もの武
家政治の下にあった日本人は、軍国
主義者の主導権主張を唯々としてう
けいれた。」

Edwin O. Reischauer:

JAPAN - Past and Present, 1964年

*一九一〇年、宣教師の次男として日本に生まれ
る。十六歳の時に米国に帰国。一九五〇年、
ハーバード大学教授となり、六一〜六六年、駐
日大使となり日米の相互理解のために活躍した。

Edwin O. Reischauer (1910-1990)

中国大陸

朝鮮半島

日本列島

東アジアの武人支配と文官統制

後漢
25-220

魏

蜀

呉

晋 265-316

北朝

南朝

隋 587-618

唐

618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明

1368-1644

清

1636-1912

中華民国 1912-

高句麗

BC37-668

百濟

346-660

新羅

356-935

高麗

918-1392

(武臣政權 1171-1270)

元の属国

李氏朝鮮

1392-1910

日韓併合 1910-1945

弥生時代

古墳時代

飛鳥時代 592-710

奈良時代 710-794

平安時代

794-1185

鎌倉時代 1185-1333

室町時代

建武の新政

戦国 1493-1590

安土桃山時代 1573-1603

江戸時代

1603-1868

明治 1868-1912

大正 1912-1926

昭和 1926-1989

テロによる政党政治の終焉

七百年におよぶ軍事支配の下にあった日本では、大正デモクラシーの中で築かれた政党政治はあまりに脆弱であった。

一九三二年、満州事変を中国との外交交渉によって解決しようとした犬養毅首相は暗殺され（五・一五事件）、その四年後に起こったクーデター未遂事件（二・二六事件）によって戦前の政党政治は終焉を迎え、日本は軍部主導による戦争への道を歩み始めた。

犬養毅（1855～1932）

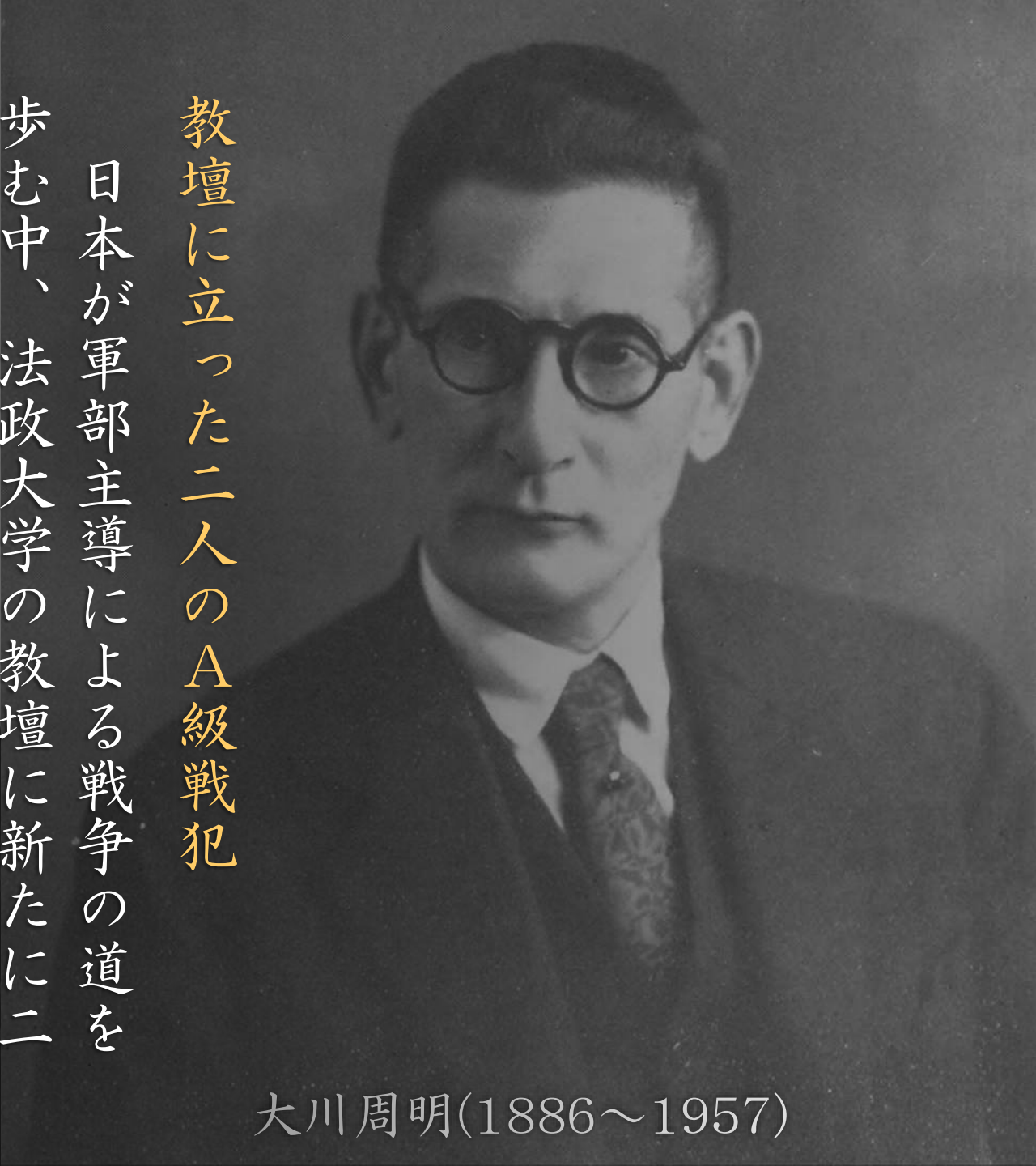
西暦	年齢	久納好孚の生涯と戦前・戦中の法政大学
1921年	0歳	1月15日、朝鮮の仁川府の明照寺に生まれる
31年	10歳	9月、満州事変(九一八事変)
32年	11歳	5月、青年将校らが犬養首相を暗殺(五・一五事件)
33年	12歳	法政騒動(～34年)
36年	15歳	2月、青年将校らがクーデターを起こす(二・二六事件)
37年	16歳	7月、法政大学予科で皇道派の軍人・荒木貞夫が修身を担当
		7月、盧溝橋事件（七七事変）
38年	17歳	2月、治安維持法違反で本学教員4名を検挙(人民戦線事件)
39年	18歳	4月、法政大学専門部に大陸部が新設される
40年	19歳	4月、法政大学専門部法律科入学
41年	20歳	12月、日本が真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まる
42年	21歳	9月、法政大学卒業後、第11期海軍予備学生飛行科入隊
43年	22歳	8月、1年間の訓練を経て、海軍少尉に任官
44年	23歳	6月19日、マリアナ沖海戦で日本空母機動部隊壊滅
		10月20日、連合軍、フィリピン・レイテ島上陸
		10月21日、神風特攻隊・大和隊隊長としてセブ島から出撃
45年	－	8月15日、終戦

教壇に立った二人のA級戦犯

日本が軍部主導による戦争の道を歩む中、法政大学の教壇に新たに二人の教員が立った。戦後、A級戦犯として訴追されることになる荒木貞夫と大川周明である。



荒木貞夫(1877～1966)



大川周明(1886～1957)

荒木貞夫（一八七七―一九六六）

五・一五事件や二・二六事件を起こした青年将校たちのカリスマ的存在であった皇道派の首魁。

一九三六年に起こった二・二六事件後、一時失脚するが、翌三七年、法政大学の予科で修身を担当。三八年には文部大臣となり、軍国主義教育を推進した。



荒木貞夫(1877～1966)

西暦	年齢	久納好孚の生涯と戦前・戦中の法政大学
1921年	0歳	1月15日、朝鮮の仁川府の明照寺に生まれる
31年	10歳	9月、満州事変(九一八事変)
32年	11歳	5月、青年将校らが犬養首相を暗殺(五・一五事件)
33年	12歳	法政騒動(～34年)
36年	15歳	2月、青年将校らがクーデターを起こす(二・二六事件)
37年	16歳	7月、法政大学予科で皇道派の軍人・荒木貞夫が修身を担当
		7月、盧溝橋事件（七七事変）
38年	17歳	2月、治安維持法違反で本学教員4名を検挙(人民戦線事件)
39年	18歳	4月、法政大学専門部に大陸部が新設される
40年	19歳	4月、法政大学専門部法律科入学
41年	20歳	12月、日本が真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まる
42年	21歳	9月、法政大学卒業後、第11期海軍予備学生飛行科入隊
43年	22歳	8月、1年間の訓練を経て、海軍少尉に任官
44年	23歳	6月19日、マリアナ沖海戦で日本空母機動部隊壊滅
		10月20日、連合軍、フィリピン・レイテ島上陸
		10月21日、神風特攻隊・大和隊隊長としてセブ島から出撃
45年	－	8月15日、終戦

過去の質問から

Q 日本が戦争への道を進む中、本学にはこれに反対する人はいなかったのでしょうか？

A 戦後、本学の総長となる大内兵衛先生を中心とするグループは、経済学者の立場から破滅的な戦争へと向かう日本の軍国主義に警鐘を鳴らしていました。

しかし、日中戦争が始まると、治安維持法違反で検挙され、グループに属していた本学の教員は、大学を追われてしまいました（人民戦線事件）。

西暦	年齢	久納好孚の生涯と戦前・戦中の法政大学
1921年	0歳	1月15日、朝鮮の仁川府の明照寺に生まれる
31年	10歳	9月、満州事変(九一八事変)
32年	11歳	5月、青年将校らが犬養首相を暗殺(五・一五事件)
33年	12歳	法政騒動(～34年)
36年	15歳	2月、青年将校らがクーデターを起こす(二・二六事件)
37年	16歳	7月、法政大学予科で皇道派の軍人・荒木貞夫が修身を担当
		7月、盧溝橋事件（七七事変）
38年	17歳	2月、治安維持法違反で本学教員4名を検挙(人民戦線事件)
39年	18歳	4月、法政大学専門部に大陸部が新設される
40年	19歳	4月、法政大学専門部法律科入学
41年	20歳	12月、日本が真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まる
42年	21歳	9月、法政大学卒業後、第11期海軍予備学生飛行科入隊
43年	22歳	8月、1年間の訓練を経て、海軍少尉に任官
44年	23歳	6月19日、マリアナ沖海戦で日本空母機動部隊壊滅
		10月20日、連合軍、フィリピン・レイテ島上陸
		10月21日、神風特攻隊・大和隊隊長としてセブ島から出撃
45年	－	8月15日、終戦

有澤廣巳元総長の回顧談

〔解説〕

当時、東大の助教授であつた有澤廣巳は、この事件で起訴された後、東大を休職処分となつた。

その後、陸軍の調査機関・秋丸機関に招かれ、経済調査班英米班主査として、英米と日本との経済比較を行い、その調査結果は「英米合作経済抗戦力調査」として陸軍軍部にも報告された。



無視された英米合作経済抗戦力調査

ぼくたち英米班*の暫定報告は九月下旬にできあがった。日本が約五十パーセントの国民消費の切下げに對し、アメリカは十五〜二十パーセントの切下げで、その当時の連合國に對する物資補給を除いて、約三百五十億ドルの実質戦費をまかなうことができ、それは日本の七・五倍にあたること……といった内容のものであった。

（有澤廣巳『学問と思想と人間と』忘れ得ぬ人々の思い出』毎日新聞社一九五七年）



無視された英米合作経済抗戦力調査

九月末に秋丸中佐はこの中間報告を陸軍部内の会議で発表した。……杉山元帥が最後に好評を行ったとき、中佐は愕然色を失った。元帥は、本報告の調査およびその推論の方法をおむね完璧で間然するところがない。しかしその結論は国策に反する。

：陸軍首脳部はすでにルビコン河を渡る決意をきめていた。決意ができているところに、川を渡ることの危険を論証する報告書などは、それこそ百害あって一利もないというのだらう。

（有澤廣巳『学問と思想と人間と』忘れ得ぬ人々の思い出』毎日新聞社一九五七年）



有澤廣巳元総長の回顧談

「戦前の経験からいいますと、自由主義の一線を守る決戦的な場面というものはあまりない。……たとえば、戦前の治安維持法だって、最初の法律にちよびちよび改悪が加えられていく。……それほど重大だと思えない改悪が、眼に見えないように積み重ねられていくことに注意しなくちゃいけない。……これがあの事件の教訓の一つです」

「二十年前―人民戦線事件回顧」
（『世界』一四七号、一九五八年四月）



西暦	年齢	久納好孚の生涯と戦前・戦中の法政大学
1921年	0歳	1月15日、朝鮮の仁川府の明照寺に生まれる
31年	10歳	9月、満州事変(九一八事変)
32年	11歳	5月、青年将校らが犬養首相を暗殺(五・一五事件)
33年	12歳	法政騒動(～34年)
36年	15歳	2月、青年将校らがクーデターを起こす(二・二六事件)
37年	16歳	7月、法政大学予科で皇道派の軍人・荒木貞夫が修身を担当
		7月、盧溝橋事件（七七事変）
38年	17歳	2月、治安維持法違反で本学教員4名を検挙(人民戦線事件)
39年	18歳	4月、法政大学専門部に大陸部が新設される
40年	19歳	4月、法政大学専門部法律科入学
41年	20歳	12月、日本が真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まる
42年	21歳	9月、法政大学卒業後、第11期海軍予備学生飛行科入隊
43年	22歳	8月、1年間の訓練を経て、海軍少尉に任官
44年	23歳	6月19日、マリアナ沖海戦で日本空母機動部隊壊滅
		10月20日、連合軍、フィリピン・レイテ島上陸
		10月21日、神風特攻隊・大和隊隊長としてセブ島から出撃
45年	－	8月15日、終戦

日中戦争が泥沼化する中、政府は「東亜新秩序建設論」*を掲げ、占領地の開発を担う人材を育成するため、大学に対し関係学科の設置を要請した。

*日満支三国間での「国際正義」の確立、共同防共の達成、新文化の創造、経済結合の実現を柱とする大陸政策

三七年 日本大学専門部拓殖科

三八年 早稲田大学東亜専攻科

法政大学専門部大陸部

拓殖大学専門部開拓科

三九年 明治大学興亜科

東洋大学拓殖科

四〇年 国学院大学専門部興亜科

大川周明（一八八六～一九六七）

法政大学大陸部の部長となったのは、五・一五事件を起こした青年将校ら国家主義思想の精神的指導者であった大川周明である。

大川は東大卒業後、ヘンリー・コットンの『新インド』を読んで、英国の植民地支配下におけるインドの惨状を知り、「白人」の支配からアジアを解放することを生涯のテーマとしたという。

大川周明(1886～1957)

大川大陸部部長の新入生への講話

「吾々の先輩や同胞は支那に於て戦っている。而してまだこの前途には幾多の困難が介在するだろうが、吾々は此处で中途半端に止めることは又数年を出ずして大規模の抗日が起ることになるが故、此際徹底的な解決が必要である。」

編纂委員会編『法政大学百年史』

(法政大学、一九八〇年)

大川周明(1886～1957)

大川大陸部部長の新入生への講話

「若し近き将来に於いて戦が済んでも、それは干戈を交へる戦争がすんだので、其の後にはもつと困難な問題があるので、半世紀の間如何に此の東亜新秩序を基くかは君達の重大な任務である。」

編纂委員会編『法政大学百年史』

(法政大学、一九八〇年)

大川周明(1886～1957)

戦後A級戦犯となった荒木と大川
学生を戦場へと駆り立てた荒木貞
夫と大川周明は、戦後の東京裁判で
A級戦犯として訴追された。
荒木は終身刑の判決を受けたが、
一九五五年に病気を理由に出所。
大川は裁判中に精神に異常をきた
したとして免訴となった。



東京裁判に出廷した被告たち

戦時下の法政大学

戦争中の法政大学について、歴史学者の宮永孝氏は、次のよう評している。

「戦争中、法政大学は軍部に迎合して生きた。戦中、配属将校は、大元帥陛下の代理として大学生の教育をするために来たといっていばっており、教練中に「かしこくも……」を何度もいい、学生に不動の姿勢をとらせた。

またかれらは教授会に出席し、及落会議において大きな発言権をもっていた。

教師らはかれらに対して抵抗を止めさず、小さくなっていた。弁解のできない卑屈さである。」

宮永孝 「昭和八、九年の法政騒動」

（社会志林五九（四）、二〇一三年三月）



第三節 戦時下の大学生活

朝鮮の大田中学校を卒業した久納好孚は、一九四〇年四月、法政大学専門部法律科に入学した。

大学入学と同時にグライダー部に所属して二級滑空士の資格を取得するとともに、水泳部にも所属した。

〔参考文献〕

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男―海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫一九九五年）

昭和初期の富士見校舎

西暦	年齢	久納好孚の生涯と戦前・戦中の法政大学
1921年	0歳	1月15日、朝鮮の仁川府の明照寺に生まれる
31年	10歳	9月、満州事変(九一八事変)
32年	11歳	5月、青年将校らが犬養首相を暗殺(五・一五事件)
33年	12歳	法政騒動(～34年)
36年	15歳	2月、青年将校らがクーデターを起こす(二・二六事件)
37年	16歳	7月、法政大学予科で皇道派の軍人・荒木貞夫が修身を担当
		7月、盧溝橋事件（七七事変）
38年	17歳	2月、治安維持法違反で本学教員4名を検挙(人民戦線事件)
39年	18歳	4月、法政大学専門部に大陸部が新設される
40年	19歳	4月、法政大学専門部法律科入学
41年	20歳	12月、日本が真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まる
42年	21歳	9月、法政大学卒業後、第11期海軍予備学生飛行科入隊
43年	22歳	8月、1年間の訓練を経て、海軍少尉に任官
44年	23歳	6月19日、マリアナ沖海戦で日本空母機動部隊壊滅
		10月20日、連合軍、フィリピン・レイテ島上陸
		10月21日、神風特攻隊・大和隊隊長としてセブ島から出撃
45年	－	8月15日、終戦

久納好孚は法政大学でどのような
青春時代を過ごしていたのだろう
か？



法政大学での青春時代

（大田中学時代の同級生・平沢一郎氏
談）

「私が知る限り、三人の女が彼に夢中になったね。一人は白鳥という女性で、いつも電車の中で久納を見てたらしいんだ。それで、彼の後をつけて、下宿を突きとめて手紙をよこしたんです。」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男』海軍中尉久納好
孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



法政大学での青春時代

（大田中学時代の同級生・平沢一郎氏談）

「二人目が横浜の写真屋の娘でね。久納が水泳部で同じだった井野精蔵と写真を撮りにいって、惚れられちゃった。東京まで会いにきちゃたんです。」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男／＼海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



法政大学での青春時代

（大田中学時代の同級生・平沢一郎氏
談）

「三人目が、料理屋の娘だね。中学
の同窓会をやったとき、その娘が
一目惚れしちゃった」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男く海軍中尉久納好
孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



久納好孚は軽佻浮薄な青年だったのか？

チャライ



法政大学での青春時代

（大田中学時代の同級生・平沢一郎氏談）

「ある夕方、私が久納といっしょに歩いておったら、やっぱり大田中学の同級生の安田三郎と道でばったり会ったんだ。安田は、法政の空手部にいたが、これが遊び人で『おい、洲崎へ女郎買いにいこう』と誘うんです。」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男／＼海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



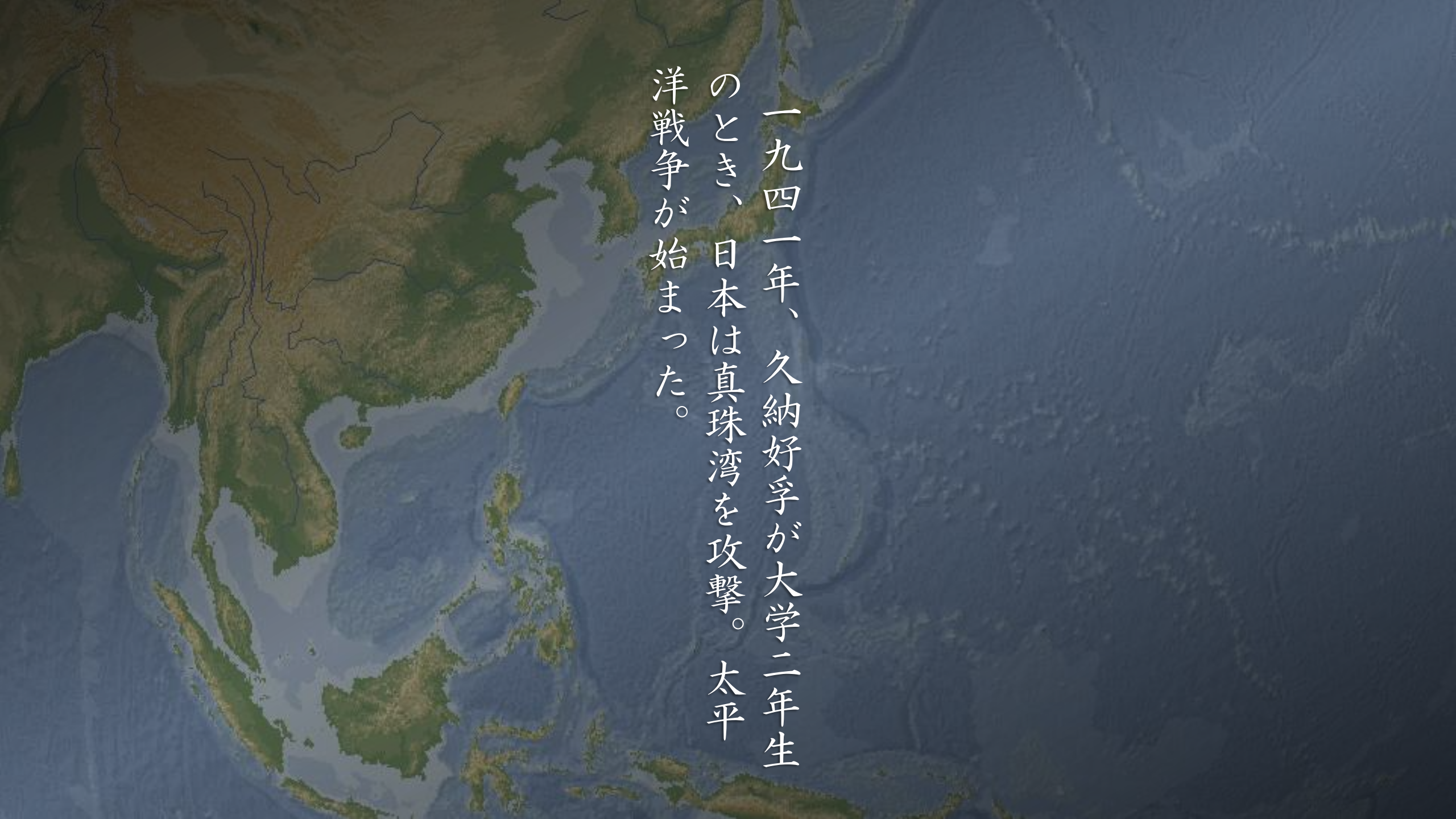
法政大学での青春時代

（大田中学時代の同級生・平沢一郎氏談）

「『よしいこう』と、私は久納を無理矢理連れていったんだ。あとで久納は、きまり悪そうな顔していたから、それ以来、誘うのはやめました。純粋なヤツでしたよ。」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男』海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）





一九四一年、久納好孚が大学二年生のとき、日本は真珠湾を攻撃。太平洋戦争が始まった。

海軍飛行科予備学生に

翌一九四二年、久納好孚は海軍予備学生飛行科を受験し、合格した。

同年九月、法政大学専門部法律科を卒業した彼は、第十一期海軍飛行科予備学生として一年間の訓練の受け、四三年八月、海軍少尉に任官した。

〔参考文献〕

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男〜海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫一九九五年）





久納好孚は、軍国主義者だったのか？

軍人よりも実業家になれ

（甥の久納慶一氏（一九三一〜）談）

「ある日、好孚叔父が、水原府の自宅にやってきまして、『お前は、将来なんになりたいか』と聞くんです。私が六、七歳のころですよ。」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男〜海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



軍人よりも実業家になれ

(甥の久納慶一氏談)

「私たちの幼いころは、男なら将来の夢は陸軍大将ですよ。(中略)

『陸軍大将』と答えますと、『バカいうな。いいか、実業家になるといえよ』なんていつてました」

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男』海軍中尉久納好孚の生涯』(光人社NF文庫、一九九五年)



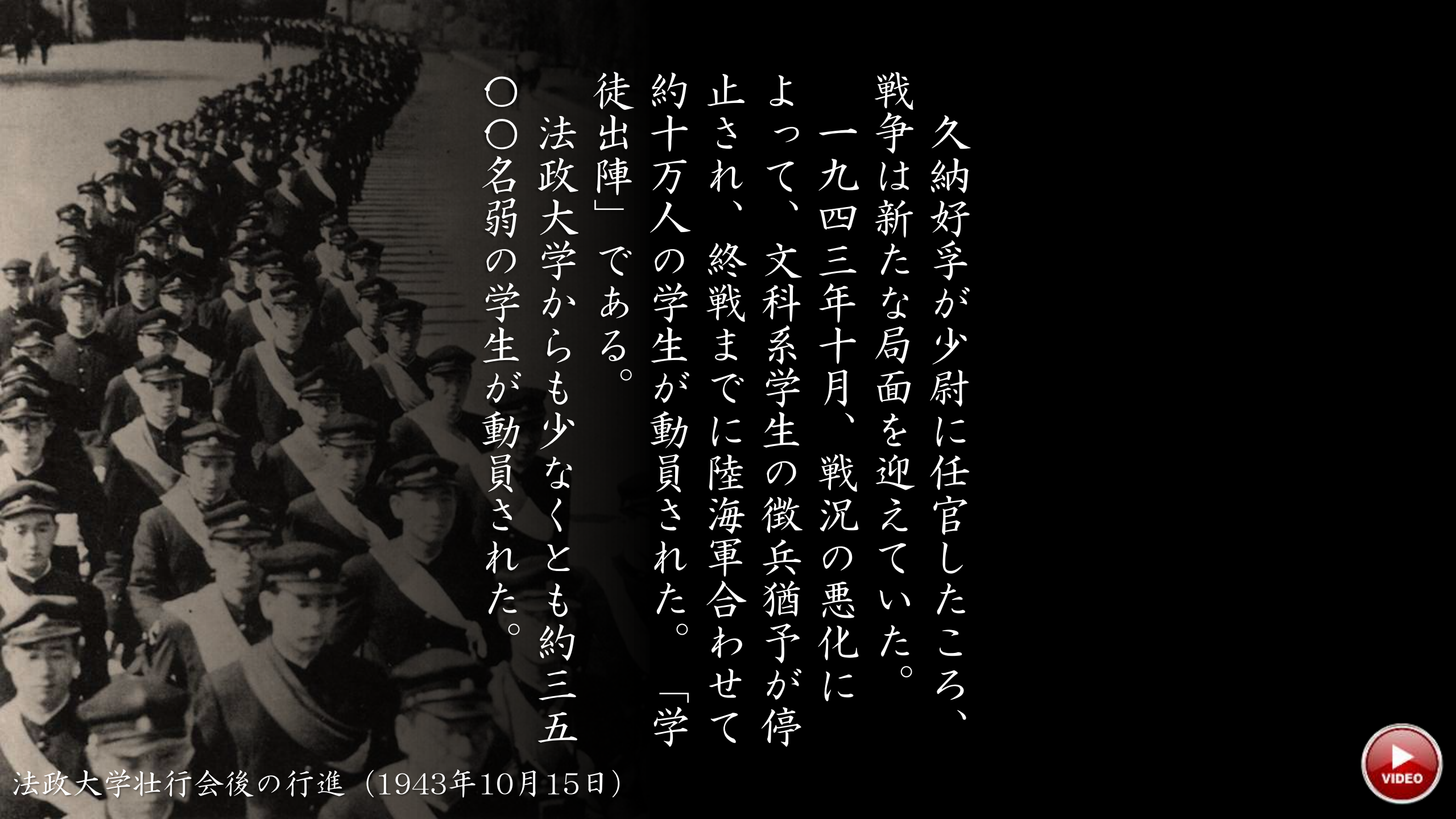
戦争の時代にあっても、武力で争う軍人ではなく、知力を競う実業家をめざせと説く。

久納好孚は、そんな青年であった。





第四節 戦場へ



久納好孚が少尉に任官したころ、
戦争は新たな局面を迎えていた。

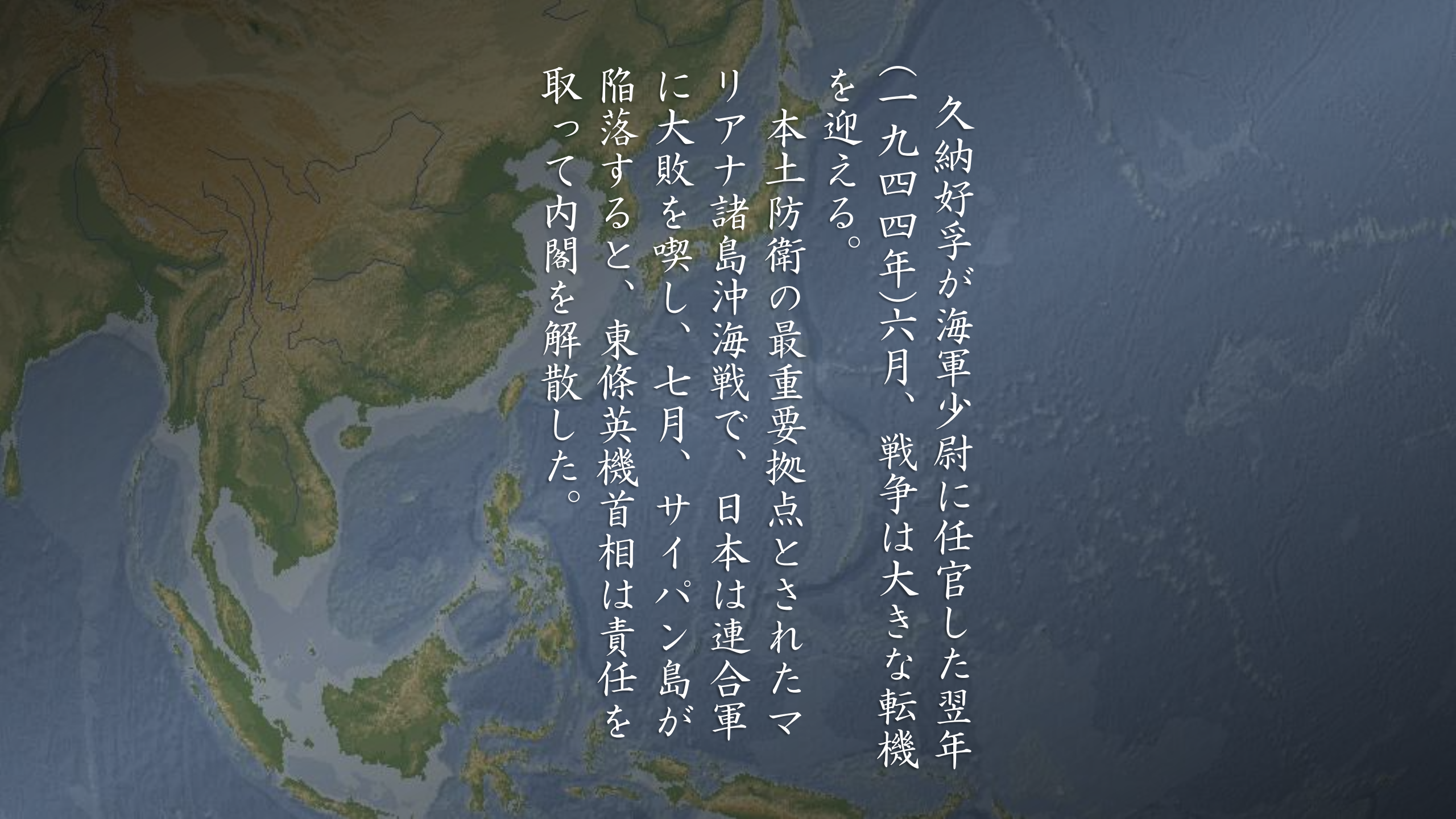
一九四三年十月、戦況の悪化に
よって、文科系学生の徴兵猶予が停
止され、終戦までに陸海軍合わせて
約十万人の学生が動員された。「学
徒出陣」である。

法政大学からも少なくとも約三五
〇〇名弱の学生が動員された。





1943年10月21日、神宮外苑競技場で開かれた学徒出陣壮行会



久納好孚が海軍少尉に任官した翌年
(一九四四年)六月、戦争は大きな転機
を迎える。

本土防衛の最重要拠点とされたマ
リアナ諸島沖海戦で、日本は連合軍
に大敗を喫し、七月、サイパン島が
陥落すると、東條英機首相は責任を
取って内閣を解散した。



マリアナ諸島

連合軍の侵攻



なぜ、マリアナ諸島は本土防衛の
最重要拠点とされたのか？

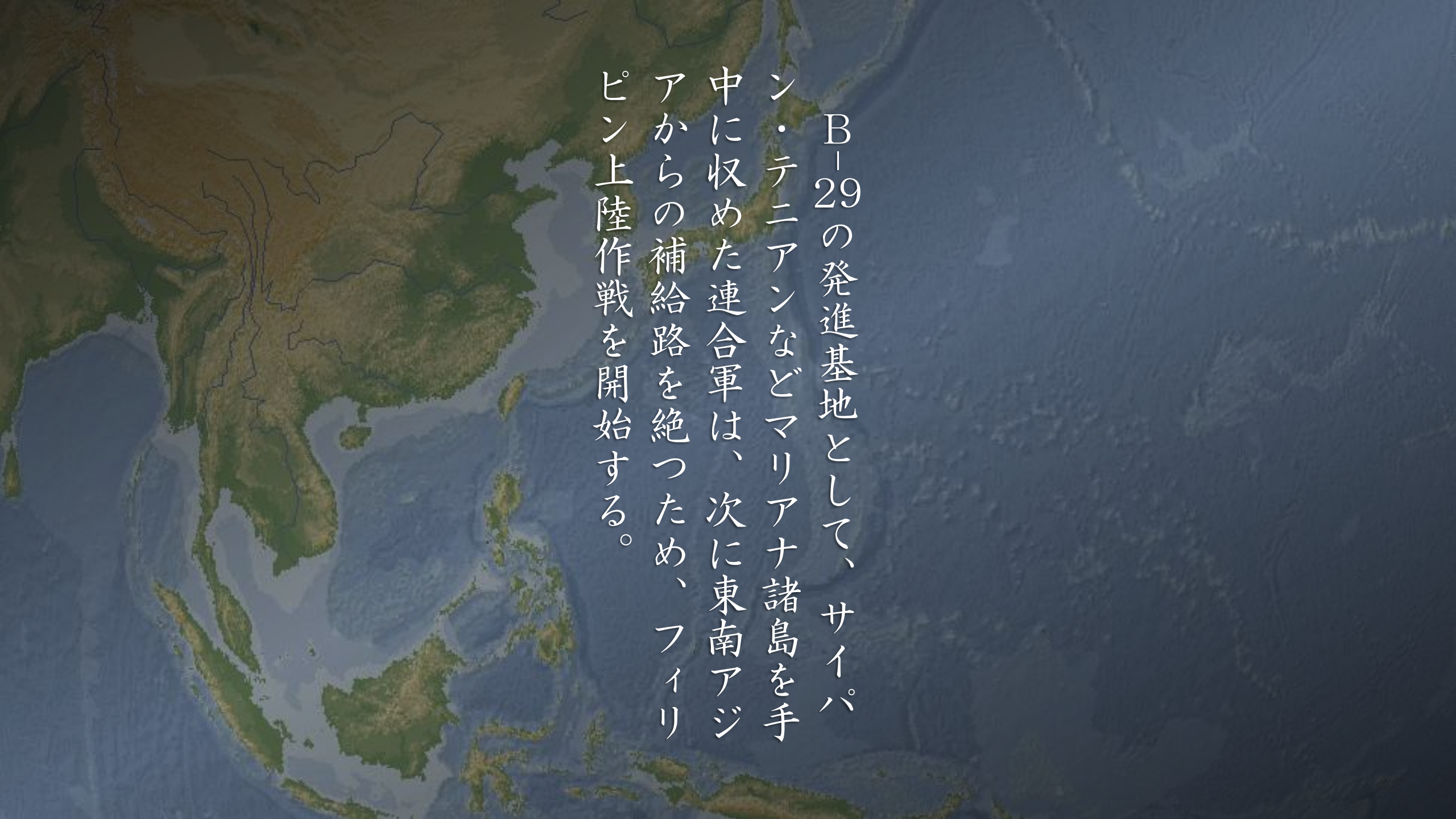


戦略爆撃機 B-29 の
航続距離：6,600 km
(爆弾7,250 kg搭載時)

マリアナ諸島



長崎・広島に原爆を投下したB-29もマリアナ諸島から発進した



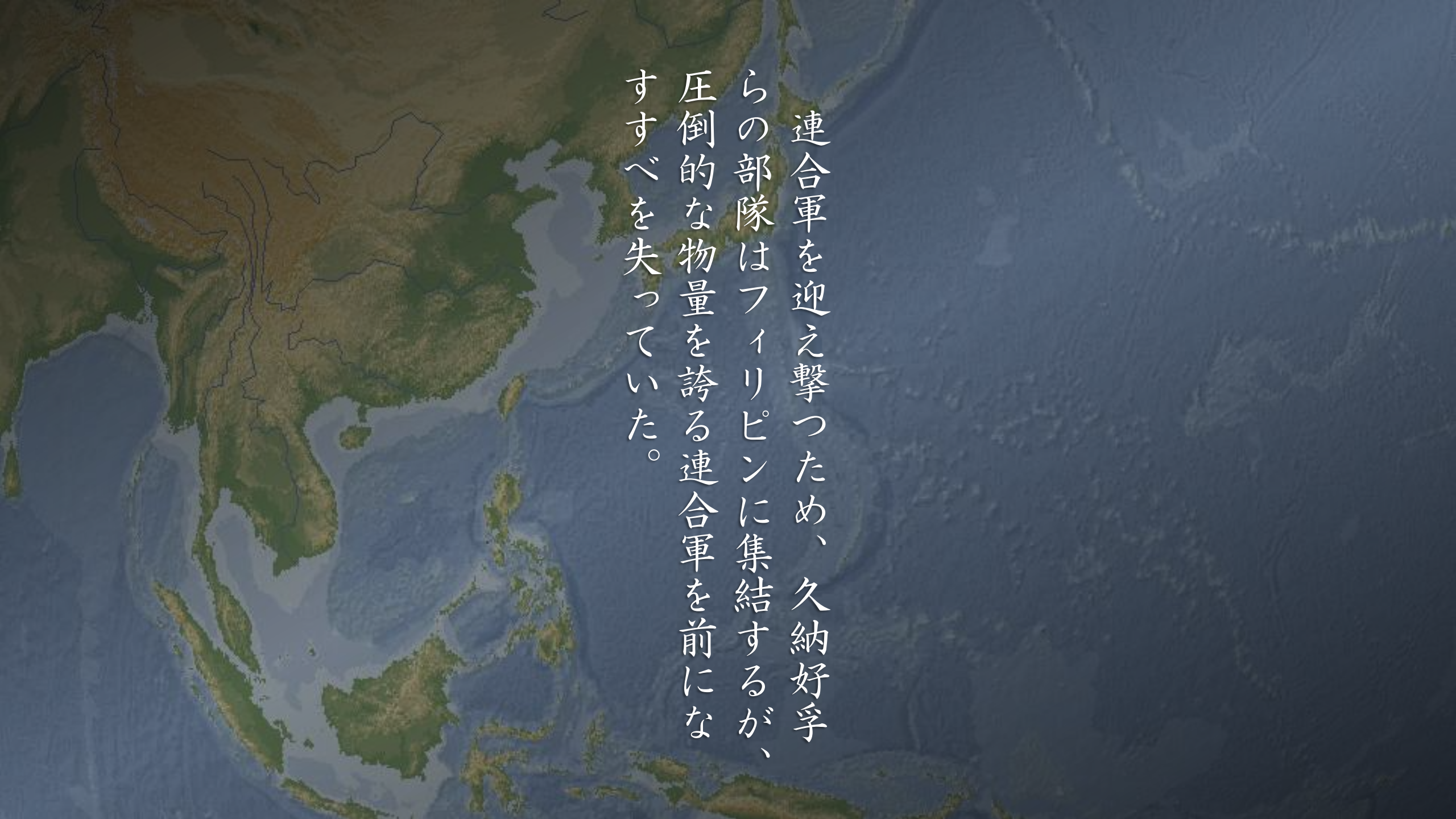
B-29の発進基地として、サイパン・テニアンなどマリアナ諸島を手中に収めた連合軍は、次に東南アジアからの補給路を絶つため、フィリピン上陸作戦を開始する。



マリアナ諸島

This is a topographical map of the Pacific Ocean region, showing the Philippines, Indonesia, and the Pacific Islands. A red dashed line with arrows indicates the path of the Allied invasion, starting from the right and moving westward towards the Mariana Islands. A green dot marks the location of the Mariana Islands, with a label pointing to it.

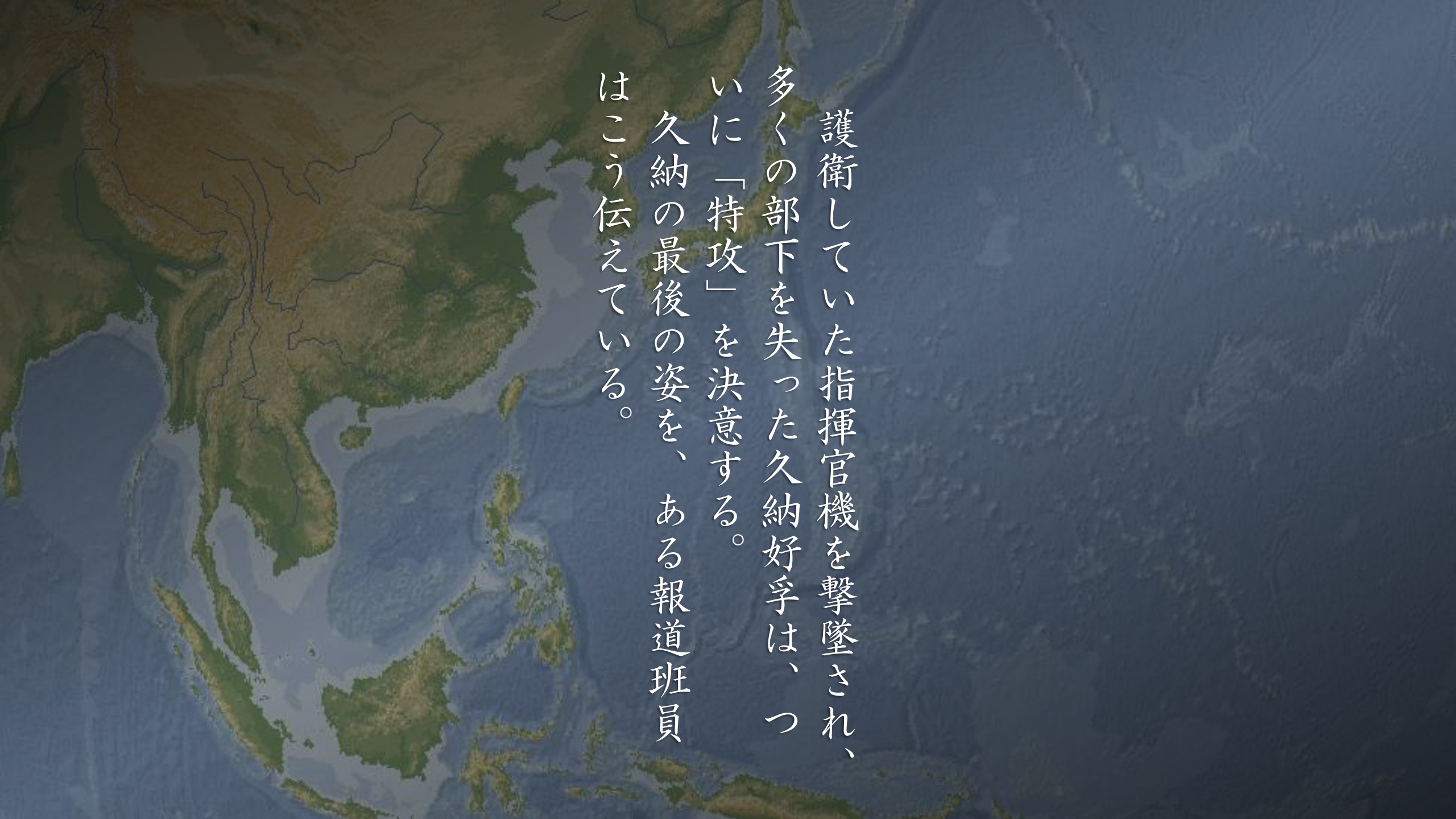
連合軍の侵攻



連合軍を迎え撃つため、久納好孚
らの部隊はフィリピンに集結するが、
圧倒的な物量を誇る連合軍を前にな
すすべを失っていた。

一九四四年十月一五日、久納好孚は、有馬正文少将を乗せた一式陸上攻撃機を護衛して、マニラ東方に現れた米機動部隊の攻撃に向かった。しかし、その動きは連合軍のレーダーに察知され、有馬少将の機は米グラマン機の迎撃を受けて撃墜され、久納も多くの部下を失った。

ツラギで撃墜された一式陸上攻撃機(1942年8月8日撮影)



護衛していた指揮官機を撃墜され、
多くの部下を失った久納好孚は、つ
いに「特攻」を決意する。

久納の最後の姿を、ある報道班員
はこう伝えている。

報道班員が見た久納好孚

海軍士官の中でも飛行機乗には寡黙な人達が多いが、とりわけ久納中尉はめったに雑談など交さぬ口重い士官だった。その為、所々の基地で会うごとに「やあまた会いましたね」とにこにこしながら近づいてはまたあっさり立ち去っていくという風であつた。しかし性格は明るく何時でも口先に微笑をたたえていた。

朝日新聞一九四四年十一月十六日朝刊

白紙で来い・豫備學生

大和隊長 久納中尉の遺言

【比島前線基地にて小野田編輯部員十四日電】かつて中部比島の某基地で學生出身海軍士官ばかりの座談會を催したことがあつた、話の中心は期せずして「われ等の後に続く後進學生への苦言や注意」から兄貴としての深い思ひに移つて行つた時である、それまで終始沈思を續けてゐた端々な面影の一士官が靜かだが、熱のある口調で次のやうなことを述べた、この士官こそ第一神風特攻隊大和隊の隊長久納中尉である

私は後に續いて来る後進を固く信じてゐるから何もしよことは無い、たゞこれは私の遺言とし

は結局後進學生への遺言集になつてしまつたね」と結びの言葉を後に士官室に立去つて行つた

「久納中尉は自分で認めた戒名と白木の小箱を何時でも持つて歩いてゐます」立ち去る中尉の後姿を見送りながら同席の8中尉がかう囁らしてゐた

海軍士官の中でも飛行機乗には寡黙な人達が多いがとりわけ久納中尉はめつたに雑談など交さぬ口重い士官だった、その爲所々の基地で会うごとに「やあまた會ひましたね」とにこにこしながら近づいてはまたあっさり立ち去つて行くという風であつた、しかし、性格は

堅いのである、そして指揮官としての強烈な畏怖を見とゞけて來たのであつた、司令への報告の中で

私が生還出來たのは終始敵機が庇護してくれたお蔭です、グラマン十数機に食ひ下がられても敵機が身を以て蹴散らしてゐました、そして二機を撃墜したのを見かけましたが、その後消息が判りません、残念です

報告を済ませた久納中尉は私に次のやうな所感を語つた

私達が當日頃から尊敬し慕ふ私たちの司令官が率先垂れで敵空母に突入、敵艦と共に戦死されたのです、部下たる私たち

報道班員が見た久納好孚

中尉の最後の姿を見かけたのは十月十五日の夕刻であつた。(中略)指揮官機先頭に輝く有馬少将が敵大型空母に玉と砕け散つた日*、久納中尉は指揮官機を護衛して出撃したのである。そして指揮官機の壮烈な最期を見とどけて来たのであつた。

*有馬少将の乗つた機は、実際には米軍機に撃墜されていたが、当時の新聞は大本営の発表に従い、こう報道していた。

朝日新聞一九四四年十一月十六日朝刊

白紙で来い・豫備學生

大和隊長 久納中尉の遺言

【比島前線基地にて小野田編輯部員十四日電】かつて中部比島の某基地で學生出身海軍士官ばかりの座談會を催したことがあつた、話の中心は期せずして「われ等の後に続く後進學生への苦言や注意」から兄貴としての深い思ひに移つて行つた時である、それまで終始沈思を續けてゐた端々な面影の一士官が靜かだが、熱のある口調で次のやうなことを述べた、この士官こそ第一神風特攻隊大和隊の隊長久納中尉である

私は後に續いて来る後進を固く信じてゐるから何もしよことは無い、たゞこれは私の遺言とし

は結局後進學生への遺言集になつてしまつたね」と結びの言葉を後に士官室に立去つて行つた「久納中尉は自分で認めた戒名と白木の小箱を何時でも持つて歩いてゐます」立ち去る中尉の後姿を見送りながら同席の8中尉がかう囁らしてゐた

海軍士官の中でも飛行機乗には寡黙な人達が多いがとりわけ久納中尉はめつたに難談など交さぬ口重い士官だつた、その爲所々の基地で會ふことに「やあまた會ひましたね」とにこにこしながら近づいてはまたあつさり立ち去つて行くといふ風であつた、しかし、性格は

堅いのである、そして指揮官機の壮烈な最期を見とどけて来たのであつた、司令への報告の中で

私が生還出来たのは終始座談會が庇護してくれたお蔭です、グラマン十数機に食ひ下がられても座談會が身を以て蔽取らしてゐました、そして二機を撃墜したのを見かけましたが、その後消息が判りません、残念です

報告を済ませた久納中尉は私に次のやうな所感を語つた

私達が當日頃から尊敬し慕ふ私たちの司令官が率先範を垂れて敵空母に突入、敵艦と共に戦死されたのです、部下たる私たちが

報道班員が見た久納好孚

司令への報告の中で、

「私が生還できたのは終始僚機が庇護してくれたお蔭です。グラマン十数機に食い下がられても僚機が身を以て蹴散らしていました。そして二機を撃墜したのを見かけましたが、その後消息が判りません。残念です。」

朝日新聞一九四四年十一月十六日朝刊

白紙で来い・豫備學生

大和隊長 久納中尉の遺言

【比島前線基地にて小野田編輯班員十四日電】かつて中部比島の某基地で學生出身機師士官ばかりの座談會を催したことがあつた、話の中心は期せずして「われ等の後に続く後進學生への苦言や注意」から兄貴としての深い思ひに移つて行つた時である、それまで終始沈思を續けてゐた端々な面影の一士官が靜かだが、熱のある口調で次のやうなことを述べた、この士官こそ第一神風特攻隊大和隊の隊長久納中尉である

私は後に續いて来る後進を固く信じてゐるから何もしふことはない、たゞこれは私の遺言とし

は結局後進學生への遺言集になつてしまつたね」と結びの言葉を後に士官室に立去つて行つた

「久納中尉は自分で認めた戒名と白木の小箱を何時でも持つて歩いてゐます」立ち去る中尉の後姿を見送りながら同席の8中尉がかう囁らしてゐた

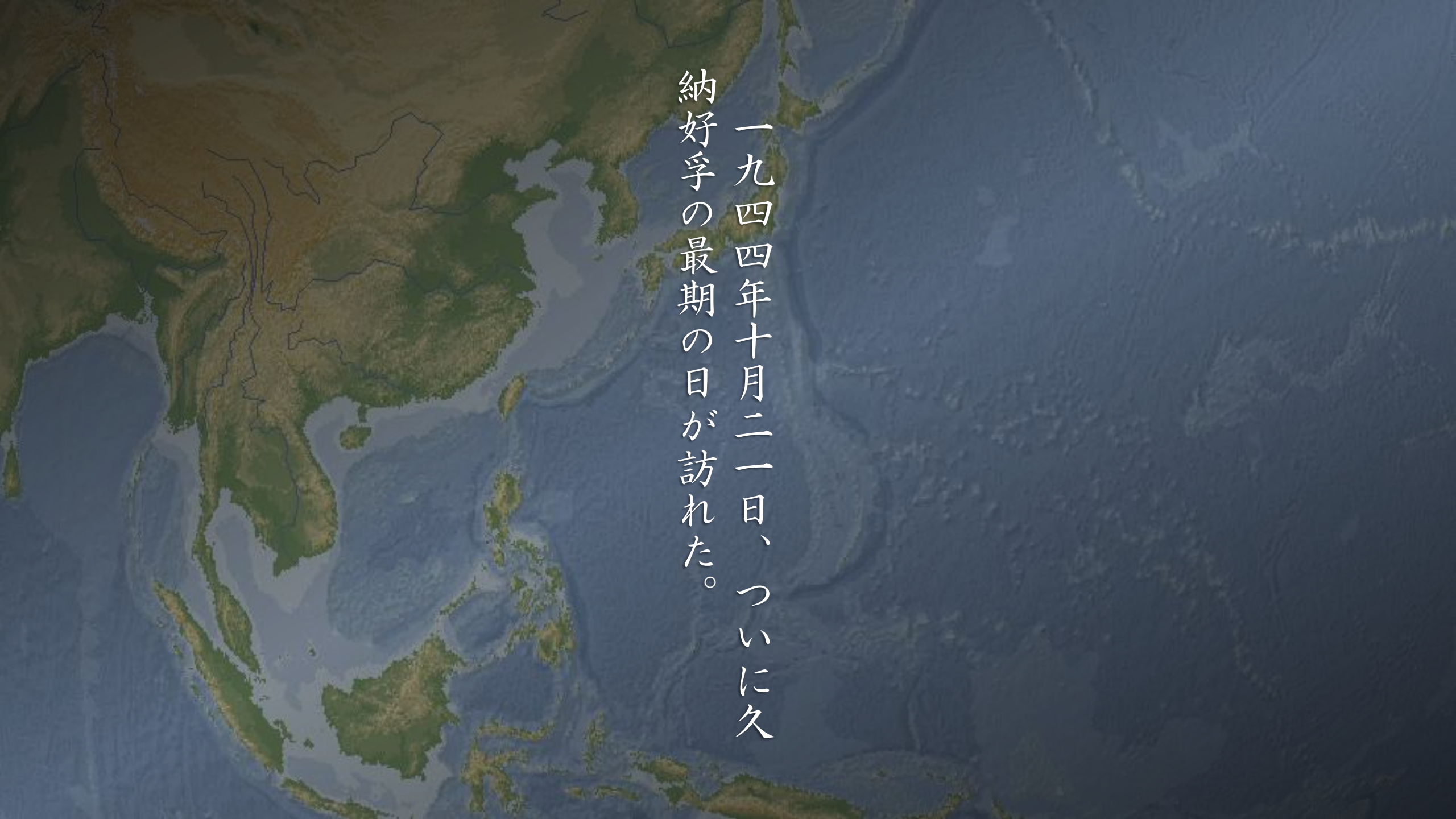
海軍士官の中でも飛行機乗には寡黙な人達が多いがとりわけ久納中尉はめつたに難談など交さぬ口重い士官だつた、その爲所々の基地で會ふことに「やあまた會ひましたね」とにこにこしながら近づいてはまたあつさり立ち去つて行くといふ風であつた、しかし、性格は

堅いのである、そして指揮官としての強烈な畏怖を見とゞけて來たのであつた、司令への報告の中で

私が生還出來たのは終始僚機が庇護してくれたお蔭です、グラマン十数機に食ひ下がられても僚機が身を以て蹴散らしてゐました、そして二機を撃墜したのを見かけましたが、その後消息が判りません、残念です

報告を済ませた久納中尉は私に次のやうな所感を語つた

私達が當日頃から尊敬し慕ふ私たちの司令官が率先範を垂れて敵空母に突入、敵艦と共に戦死されたのです、部下たる私たち



一九四四年十月二一日、ついに久
納好孚の最期の日が訪れた。

久納好孚はセブ島の基地から特攻に出撃する前夜、あることとしていた。それは何か？

①大酒を飲んで泥酔する

②上官と大喧嘩をする

③慰安所(風俗店)へ遊びに行く

④ピアノを弾く

Q



戦友が見た出撃前夜の久納好孚

久納中尉と予備学生時代の同期だった佐藤則安中尉は、戦闘三〇六の分隊長としてこの夜、セブ基地にいた。：：夕食のときがくる。階下の士官用食堂に搭乗員、整備員の士官が集まる。食事が終わると、士官たちはささやかな団欒を楽しむ。久納中尉は、食卓を背にして、静かにピアノを弾きはじめた。

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男／＼海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



戦友が見た出撃前夜の久納好孚

佐藤氏は、「久納の弾いていた曲は、ベートーベンの『月光』だったよ」と、戦後語っている。

大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男く海軍中尉久納好孚の生涯』（光人社NF文庫、一九九五年）



NHKスペシャル「映像の世紀」より

「特攻」へと飛び立った久納好孚は、
その後どうなったのだろうか？

久納好孚が最後に飛び立ったフィリピン・セブ島

久納好孚の「特攻」は、日本側の記録では「戦果未確認」となっている。

しかし、連合軍側の記録によれば、この日午前六時五分、戦艦オーストラリアが、日本軍機の特攻を受け、艦長（写真中央）以下三〇名が死亡、六四名が負傷した。

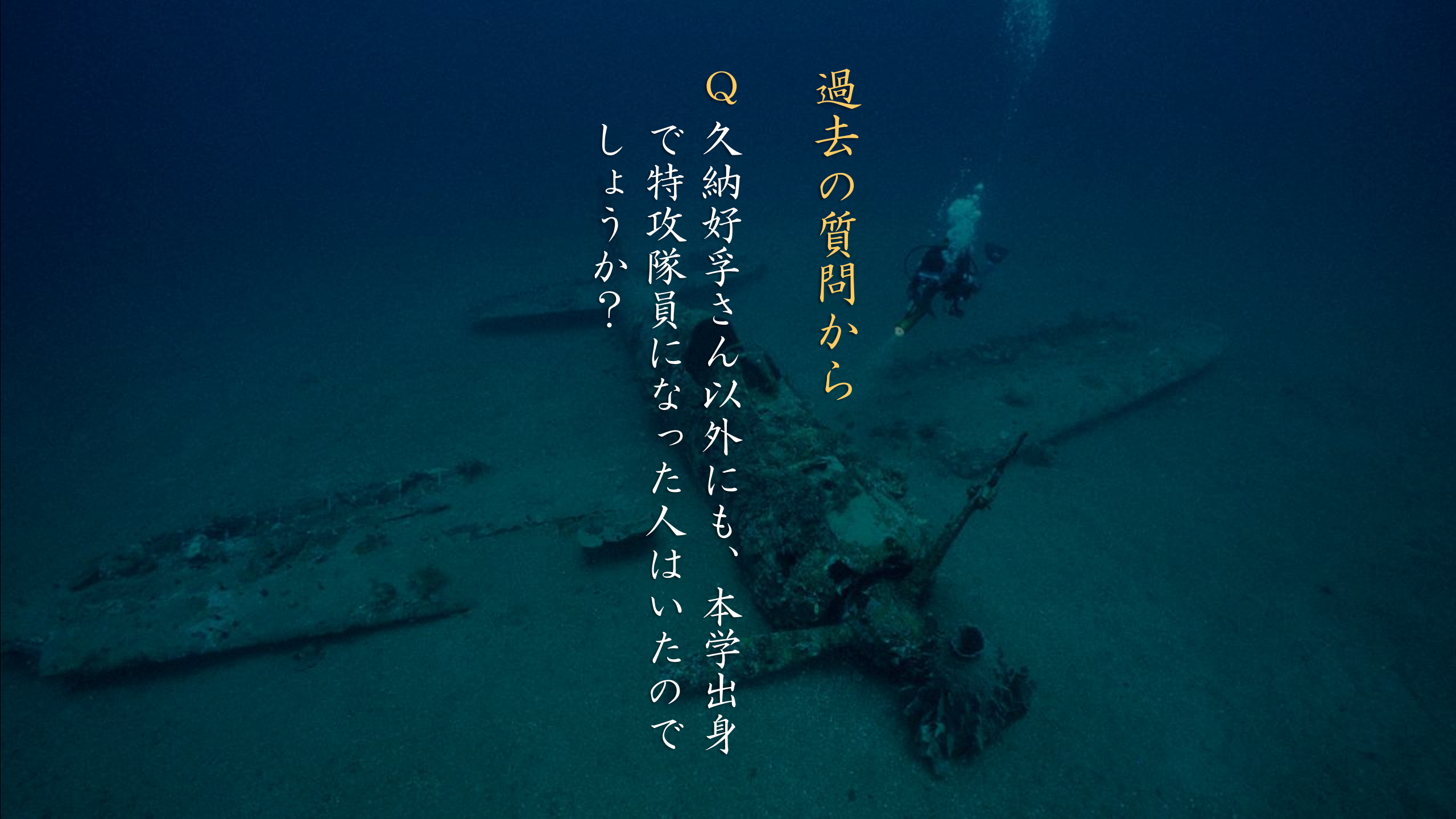
一説には、これが久納好孚の機ではないかという。



H.M.A.S. Australia (September 1944)

過去の質問から

Q 久納好孚さん以外にも、本学出身で特攻隊員になった人はいたのでしょうか？



出撃日	氏名・階級（出身）	部隊名（ ）内は戦没地
1944年		
10月21日	久納好孚中尉（予備学11期）	大和隊（フィリピン沖）
1945年		
3月11日	宮澤宏男中尉（予備学13期）	梓特別攻撃隊（ウルシー環礁）
	福島元康少尉（予備学13期）	梓特別攻撃隊（ウルシー環礁）
4月12日	竹口 正少尉（予備学13期）	神風特別攻撃隊第二七生隊（与論島東方海域）
	大平誠志少尉	神風特別攻撃隊第二〇振武隊
14日	平林勇作少尉（予備学14期）	神風特別攻撃隊第一昭和隊（徳之島東方）
	小野寺朝男少尉（予備学14期）	
	竹内秀雄少尉（予備学13期）	第四神風桜花特別攻撃隊神雷部隊（沖縄周辺）
16日	三好重成少尉（予備学13期）	神風特別攻撃隊皇花隊（嘉手納沖）
5月 4日	中島之夫少尉（予備学14期）	神風特別攻撃隊第一魁隊（沖永良部島近海）
	中谷栄一	
6日	鮫島 豊少尉	陸軍特攻第五一振武隊
	北澤元治少尉	陸軍特攻第五五振武隊（沖縄中城湾）
11日	坪谷幸一少尉	
14日	本田耕一少尉（予備学14期）	神風特別攻撃隊第六筑波隊（種子島東方）

* 『海軍飛行科予備学生・生徒史』（同刊行会、1988年）などをもとに作成

宮澤宏男（一九二二？～四五）

愛知県出身。一九四五年三月、梓特別攻撃隊としてカロリン諸島ウルシー環礁に出撃し、戦死。享年二三歳。

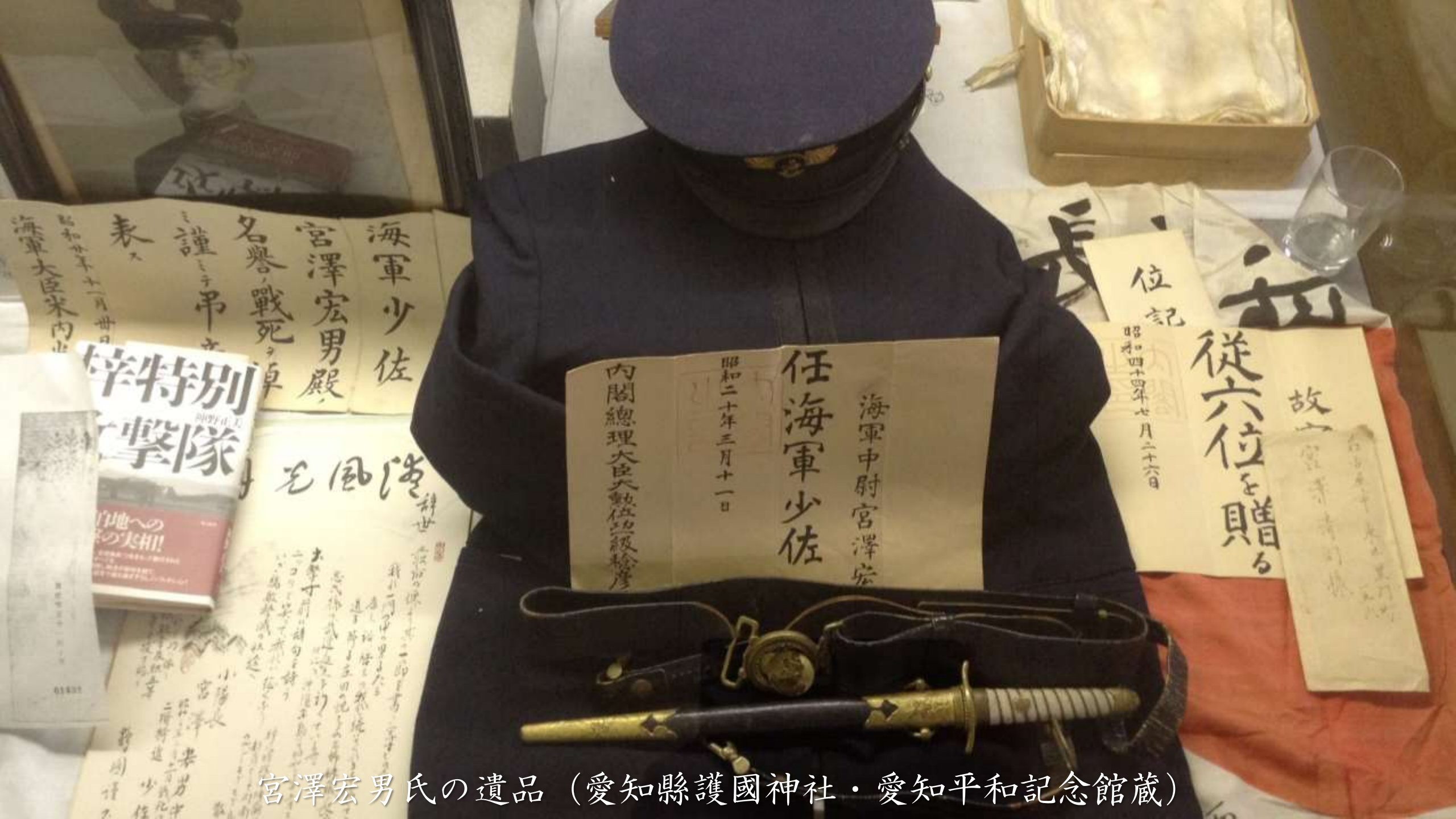
〔参考文献〕

神野正美『梓特別攻撃隊』（光人社、二〇〇〇年）





愛知縣護國神社



宮澤宏男氏の遺品（愛知縣護國神社・愛知平和記念館蔵）



鮫島 豊(一九二一?～四五)

鹿児島県出身。法政大学元アイスホッケー部選手。一九四五年五月六日、陸軍特攻第五十一振武隊として沖縄西方面に出撃し、戦死。享年二十四歳。

〔参考文献〕

大貫健一郎・渡辺考『特攻隊振武寮』（講談社、二〇〇九年）

右写真のご遺族より提供いただきました。



陸軍特攻第五十一振武隊 12名

本田耕一（一九二三？～四五）

兵庫県出身。法政大学元野球部一
塁手。一九四五年五月一四日、神風
特別攻撃隊第六筑波隊隊員として沖
縄方面へ出撃、種子島東方で戦死。
享年二二歳。

〔参考文献〕

北影雄幸『六大学学徒出陣の特攻』

（勉誠出版、二〇一一年）





神風特別攻撃隊筑波隊総員 84 名（神風舎前にて）

最後のキャッチボール

本田耕一氏の最後のようすについて、当時海軍報道班員だった作家の山岡荘八は、次のように記している。

「石丸進一少尉は兄と共に職業野球の名古屋軍にはいつていたことがあるとかで、本田耕一少尉と共によくキャッチ・ボールをしていたが、いよいよ出撃の命が下り、司令の訓示が済むと同時に、二人で校庭に飛び出して最後の投球をはじめた。

『ストライク！』今もハッキリとその声は私の耳に残っている。

彼等は十本ストライクを通すと、ミットとグローブを勢いよく投げ出し、「これで思い残すことはない。報道班員さようならッ」大きく手を振りながら戦友のあとを追った。」

山岡荘八「最後の従軍」

（朝日新聞一九六二年八月八日）

「特攻」が実施された一九四四年十月二十一日から終戦までの十ヶ月間に、特攻隊員として戦死した若者の数は？

① 一〇〇名以下

② 五〇〇名前後

③ 一〇〇〇名前後

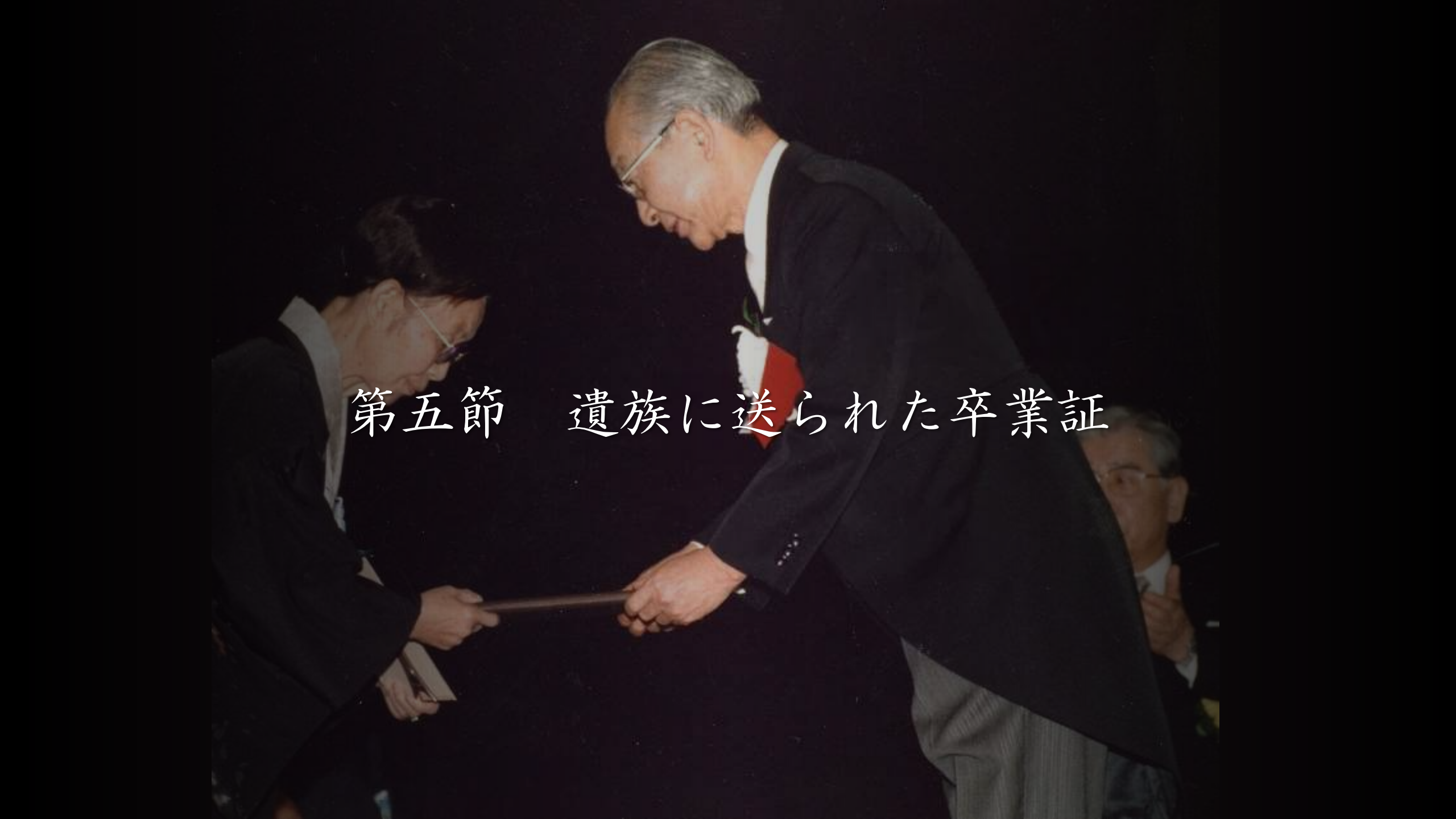
④ 五〇〇〇名以上

Q

特攻隊慰霊顕彰会編『特別攻撃
隊』の集計によれば、「特攻」によ
る戦死者は、一九四四年十月の作戦
開始から終戦までの十ヶ月（二九九
日）間に、航空機による者だけで三
九四八名（海軍二五三一名、陸軍一
四一七名）。特殊潜航艇や特殊舟艇
による者を含めると五八四五名に及
んだ。

久納好孚が「特攻」に出撃した
七ヵ月後、東京大空襲により本学の
第一校舎、第二校舎は焼失した。
それから三ヵ月後、日本は終戦を
迎えた。

1944年5月25日、空襲により焼失した第一校舎



第五節 遺族に送られた卒業証

一九九〇年、法政大学では学徒出陣*し、再び大学に戻ることができなかった学生に卒業証を交付した。戦災を免れ、学籍簿が残っていた一四六名を追跡調査した結果、三五名の戦没が確認され、そのうち十名の遺族に卒業証が授与された。

*法政大学史委員会が二〇一七年に発表した『法政大学と出陣学徒事業報告書(上)』によれば、本学からの出征者は三三九五名、戦没者は六九四名が確認されている。

戦没学生の遺族 (1990年度学位記授与式・大学史編纂室提供)



阿利莫二総長(当時)の式辞

「大学は、これらの（学徒出陣した）人たちを、当時歓呼の声で送りました。時の力に抗し難かったとはいえ、痛恨の極みであります。

法政大学は今ここに全学を挙げ、改めてそのことに思いを致し、大学として責任を果たすことにしました」



戦没学生遺族に卒業証を渡す阿利総長（1990年度学位記授与式）

主催：法政大学史委員会、法政大学史センター

学び舎から戦場へ

―学徒出陣70年法政大学の取り組み―

【公開シンポジウム】

ゲスト：学徒出陣経験者（上島武雄、
櫻井眞一郎、田中三郎の三氏）

2013年12月16日（月）13:30～16:00

ポアソナード・タワー26階スカイホール

【記念展示会】

2013年12月9日（月）～20日（金）

外濠校舎6階展示スペース

本学ではシンポジウムやHOSSEI
ミュージアムを通じて、いまも戦争
の記憶を後世に伝えるための活動が
続けられている。

法政大学学徒出陣調査中間報告会

戦後70年

法政大学と出陣学徒

―記憶と記録―

第一部 本学調査の報告
第二部 各大学の取り組み

基調講演者・パネリスト

都倉 武之氏

慶應義塾大学

パネリスト

瀬戸口 龍一氏

専修大学

パネリスト

高橋 秀典氏

日本大学

2015年11月23日（月，祝日）

13時30分～17時30分 入場無料
予約不要

会場 法政大学市ヶ谷キャンパス
ポアソナード・タワー
26階 スカイホール
（東京都千代田区富士見2-17-1）

主催 法政大学史委員会 法政大学史センター
お問い合わせ 法政大学史センター TEL:03-3264-6501 / E-Mail: daigakushi@hosei.ac.jp

日本の植民地統治下にあった朝鮮に育ちながらも、偏狭な自民族中心主義 (ethnocentrism) に陥らない心優しい青年。

武力で争う軍人よりも、知力を競う実業家を選べと説いた青年。

そんな青年を「特攻」へと駆り立てた戦争。

久納好孚は、二三年という短い生涯を通じて、私たちにアジアの人々との友好の大切さ、戦争の悲惨さと平和の尊さを教えているのではないだろうか。

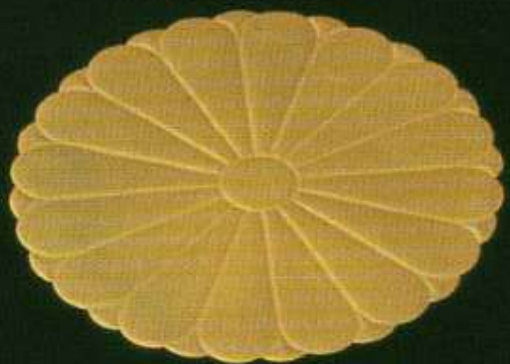
日本国憲法第九條

第九條（戦争放棄、軍備及び交戦権の否認）

1 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。

詢及び、樞密顧問の諮
十、三、條に、
議決を経た
の改正を裁可し、
にこれを公布せしめ
る。



参考文献

- 一. 大野芳『神風特攻隊ゼロ号の男
〜海軍中尉久納好孚の生涯』
（光人社NF文庫、一九九五
年）
- 二. 神野正美『梓特別攻撃隊』（光
人社、二〇〇〇年）
- 三. 北影雄幸『六大学学徒出陣の特
攻』（勉誠出版、二〇一一年）
- 四. ローラ・ハイン『理性ある人び
と力ある言葉―大内兵衛グ
ループの思想と行動』（岩波書
店、二〇〇七年）
- 五. 大塚健洋『大川周明と近代日
本』（木鐸社、一九九〇年）
- 六. 『海軍飛行科予備学生・生徒
史』（同刊行会、一九八八年、
非売品）
- 七. 法政大学史委員会編『「法政大
学と出陣学徒」事業報告書
（上）』（二〇一七年）